

Interview — 利用者の声を聞きました —



東京・福岡在住
綾部さんご家族

福岡に帰省中で、平戸には旅行へ来ました。急遽耳鼻科に行く予定があり、行く途中にこの公園が見えたので、立ち寄ってみました。

遊具がたくさんあるし、健康器具などもあるので、子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで一緒に過ごすことができて、とてもいい公園ですね。



明の川内町
千北 光世さん
光姫さん
晃誠さん

公園前の道路を車で通る時に、子どもから「行きたい」と言われる所以で、連れてきました。

これまで、平戸大橋公園や松浦の不老山公園などに行っていたので、遠くて行けない時などもありましたが、この公園が身近に出来てたことで子連れで気軽に行けるようになってありがとうございます。



戸石川町
七種 利夫さん
聖香さん

夏休みで、孫と一緒に家の近くにできた公園に遊びにきました。

孫と一緒に出かけるのは、大変ですが楽しいですね。この公園なら身近にあるので、気軽に行けるしどこにいるかがすぐにわかる広さで、安心して孫との時間を過ごさせて助かりますね。



平戸市離島開発総合センター跡地に、平戸の新しい交流拠点を整備

「さくらばば公園」オープン

老朽化により解体した平戸市離島開発総合センターの跡地に、平戸の新たな交流拠点として「さくらばば公園」が7月20日に開園しました。戸石川町に整備された都市公園「さくらばば公園」は、敷地面積が約3,200m²あり、大型の児童遊具や3種類の健康遊具を設置しています。また、22台駐車できる駐車場や多目的トイレ、休憩所なども整備され、子どもから高齢者まで世代を超えて安心して利用することができます。

遊具やデザインも相違工夫

「さくらばば公園」名称の由来

さくらばば公園の「さくらばば」とは、もともとは戸石川町のこの地区一体の地名でした。



昔から春先になると、川沿いに桜の花が咲く場所であったことから、この名称がつけられました。

子どもたちが遊ぶ遊具には、滑り台やアスレチックなどの遊具機能を有しているだけでなく、平戸の魅力をより身近に感じてもらえるように、平戸城や平戸大橋、生月大橋などをイメージしたデザインとなっています。また、健康器具も「のびのびベンチ」「ボディーサスペンダー」「ダブルツイスト」など、高齢者の筋力アップやストレッチにも効果的で、大人から子どもまで遊べる公園となっています。

平戸市民の新たな憩いの場

さくらばば公園案内図



※夏場は遊具が熱くなりますので、気を付けてご利用ください。

さくらばば公園は、完成後の公園の管理の一部を地元の人たちで担うことになっています。また、今後は地区のお祭りや花見など季節の行事に、この公園を利用することも予定されています。

平戸市では持続可能な集落機能の維持に向けて新しいコミュニティづくりを勧めています。さくらばば公園ができることで、平戸北部地区につながりや絆がより一層深まり、コミュニケーションティづくりへの機運がさらに高まるよう、今後も地域と一緒につながりを推進していきます。

**さくらばば公園から始まる
地域コミュニティづくり**

整備費の一部には、平戸市ゆかりの企業からの寄付も含まれています。

昨年3月19日には、東京に本社がある大手総合物流会社「山九株式会社」の中村公大社長が平戸市を訪問し、さくらばば公園の整備費に役立ててほしいということで、市長に寄付を手渡しました。

「さくらばば公園」建設に携わった人たちの想い

さくらばば公園は、地元区長をはじめ北部地区保育園父母の会や小学校PTAなどたくさんの人たちの想いが詰まった公園です。今回は、その想いについて携わった人たちを取材しました。

Interview

高齢者、子どもの憩いの場と災害時の避難場所として

離島開発総合センターは、周辺地区の避難所に指定されていたので、解体後も避難場所を確保してほしいと思っていました。また、子どもの遊び場が多く、田平や松浦まで行く家族も多いと聞いていました。そういったことから近隣で、安心して遊べる場所や、高齢者が集う場所もほしいという熱い声が、1,111人の署名として集まりました。これだけの人たちの期待に応えるためにも、周辺地区的区長や住民の皆さんの方を借りて要望活動していました。

今後は、この町のシンボルとして大切に活用していくたいと思っています。



さくらばば公園建設委員
杉山区長 木村 孝市さん



愛の園保育園父母の会
平成27年会長 山内 貴史さん

幅広い年齢層が利用することで人も地域も元気になる

4年前、建設委員の木村区長から公園建設の話を聞いた時、平戸の中心地に子どもからお年寄りまでの憩える場所がもっと身近にあればという意見もあり、私も感じていたので、子どもたちのために父母の会からも要望しました。この公園は、緑やオープンスペースもあり、幅広い年齢層でのレクリエーション、文化活動などの拠点になるなど、快適で豊かな地域づくりができると思います。

これからは、この公園がお年寄りの憩いの場、子どもが遊びのびのび遊べるスポットとして、多くの人が利用し、活気あふれる場所になればと願っています。



白石建設株式会社
代表取締役 白石 元信さん

祖父母から孫まで三世代が安心・安全に楽しめる場所に

公園建設にあたっては、まずは子どもたちが安心安全で楽しく遊べるようにと考えて工事を行いました。整備後は、公園管理の一部を地元の人たちが担うということなので、少しでも負担が少なく、管理しやすいように施工も注意して行いました。例えば、園路やグラウンドは、雨が降つてもすぐに遊ぶことができるようになります。園路を良くし、草も生えにくくしたりと工夫した施工をしています。

この公園は、子どもだけでなく高齢者でも楽しめる空間となっているので、安全に楽しく、そして大切に利用してほしいと思っています。